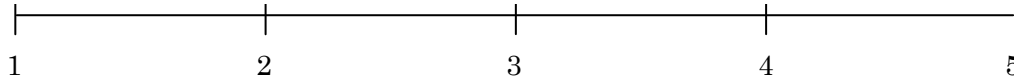


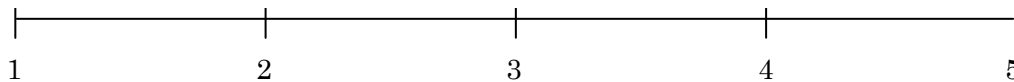
問7. あなたが産業医を務める事業所において、「精神医学」を専門としないあなたから見ても、どう考えても復帰出来そうにない社員が、精神科主治医の「半日勤務にて復職可能」の診断書を提出してきたとします（主治医側には休職期間の満了が近いなど主治医側の事情があるものとします）。あなたは、このような事例に対してどのように対応しますか。

復帰を認める 復帰できるよう配慮を検討 どちらでもない 復帰延期を勧める 復帰は延期にする



問8. この事例について、事業所で復帰のための面談を実施したところ、上司も人事もあなたと同様に、復帰しても仕事ができるとは思えないし、周囲の負担を考慮すると、とても復帰を認めるわけにはいかないとの意見だったとします。あなたは、どのように対応しますか。

復帰を認める 復帰できるよう配慮を検討 どちらでもない 復帰延期を勧める 復帰は延期にする



問9. 問7-8のような問題に対して、産業医の意見にもとづく会社主導による判断と、主治医意見にもとづく判断のいずれに重点をおくべきだと考えますか。

強く会社主導 会社主導 どちらでもない 主治医意見 強く主治医意見



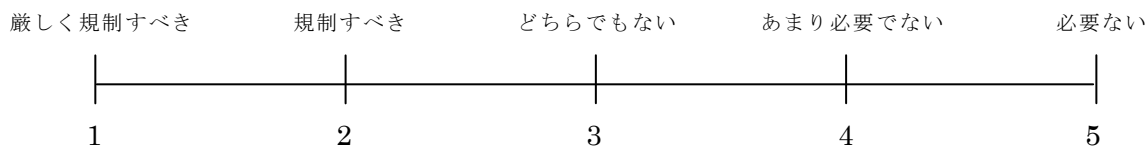
問10. このような状況で復帰後まもなくして病状が増悪した場合には、次にあげる関係者には、責任があると考えますか。

		大きな責任がある	責任がある	どちらでもない	あまり責任はない	責任はない
10-1	社員本人	1	2	3	4	5
10-2	社員の直属の上司	1	2	3	4	5
10-3	社員の家族	1	2	3	4	5
10-4	社員の主治医	1	2	3	4	5
10-5	会社	1	2	3	4	5
10-6	会社の産業医	1	2	3	4	5

問11. 健康管理の目的には、単に社員の健康増進を目的とするような「福利厚生的」なものから、上記の事例で紹介したような社員の安全・健康の配慮を目的とするような「(会社の)リスク・マネジメント的」なものまで考えられます。いずれが、より優先されるべき目的であると考えますか。

1. 社員の健康増進を目的とするような「福利厚生的」なもの
2. 社員の安全・健康の配慮を目的とするような「リスク・マネジメント的」なもの

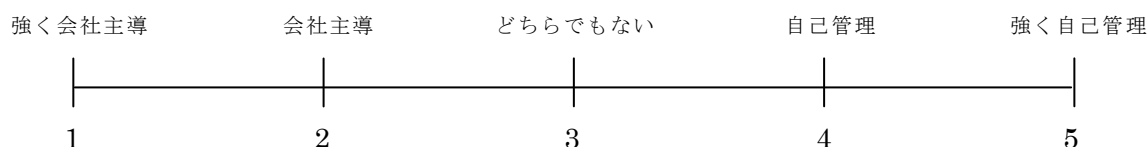
問 1 2. 2003 年に山陽新幹線の運転士が、「睡眠時無呼吸症候群」という病気のために、運転中に居眠りをし、駅をオーバーランすることがありました。場合によっては大事故につながりかねないということで、これ以後、公共交通機関の運転士等においては、「安全に運行できないおそれがあるかどうか」を、会社の責任においてチェックし、規制を求める世論がありました。あなたは、このような事例に対してどのように考えますか。



問 1 3. 糖尿病の治療状況（血糖値管理）の悪い患者については、運転中に「低血糖発作」による意識消失により、事故を起こす可能性があることが指摘されています。一般の会社においても、自家用車による通勤は健康管理の一環として規制されるべきだと考えますか。



問 1 4. 問 1 2—1 3 のような問題に対して、規制も含めた会社主導による健康管理と、社員自身による健康の自己管理のいずれに重点をおくべきだと考えますか。



問 1 5. 糖尿病の治療状況（血糖値管理）の悪い社員が、きちんと通院や服薬などをしない場合には、次あげる関係者には、きちんと通院や服薬などをさせる責任があると考えますか。

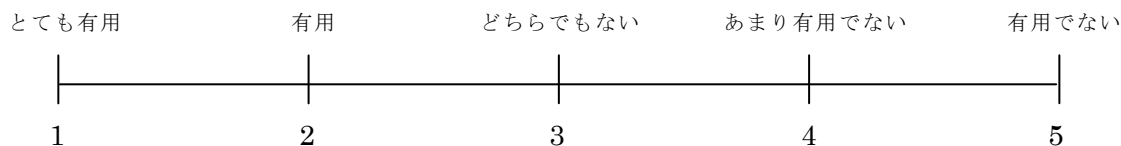
		大きな 責任がある	責任がある	どちらでも ない	あまり 責任はない	責任はない
1 5 - 1	社員本人	1	2	3	4	5
1 5 - 2	社員の直属の上司	1	2	3	4	5
1 5 - 3	社員の家族	1	2	3	4	5
1 5 - 4	社員の主治医	1	2	3	4	5
1 5 - 5	会社	1	2	3	4	5
1 5 - 6	会社の産業医	1	2	3	4	5

問 1 6. 健康管理の目的には、単に社員の健康増進を目的とするような「福利厚生的」なものから、上記の事例で紹介したような広く社会への安全・健康の配慮を目的とするような「(会社の) リスク・マネジメント的」なものまで考えられます。いずれが、より優先されるべき目的であると考えますか。

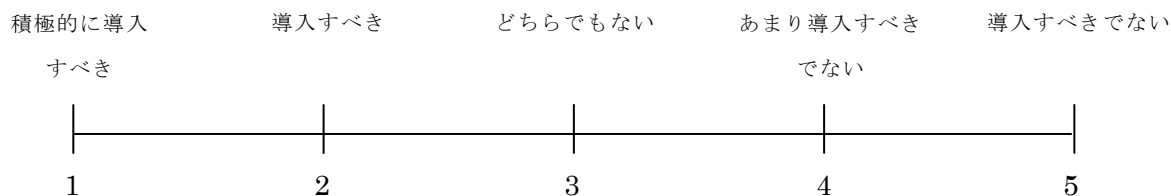
1. 社員の健康増進を目的とするような「福利厚生的」なもの
2. 社会への安全・健康の配慮を目的とするような「リスク・マネジメント的」なもの

近年、メンタルヘルスで療養した社員の復帰に際して、正式に復職を発令する前の「お試し出社」（通勤訓練などとも言う）や、正式に復職を発令した後の「軽減勤務」（リハビリ勤務などとも言う）といった制度が円滑な復帰の一方策として取り上げられることがあります。

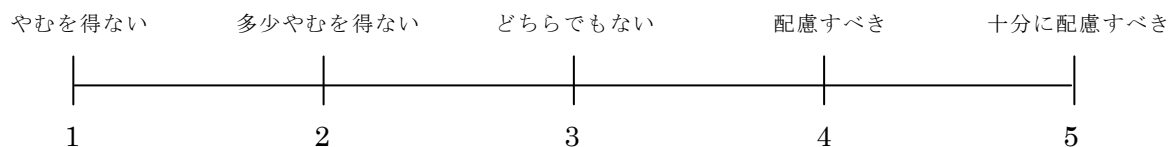
問 17. あなたは、「お試し出社」や「軽減勤務」が、円滑な復帰に有用であると考えますか。



問 18. あなたは、企業はこうした制度を導入すべきと考えますか。



問 19. 一方でこうした制度は、周囲の社員にとっての負担になりえることが指摘されていますが、やむを得ないと考えますか、周囲への負担について配慮すべきと考えますか。



<最後にあなた自身のことについてお伺いします。ご協力、よろしく願いいたします。>

問 20. あなたの性別について、あてはまる番号に○をご記入ください。

1. 男	2. 女
------	------

問 21. あなたの年齢（2012年1月1日現在）について、あてはまる番号に○をご記入下さい。

1. 20～29歳	2. 30～39歳	3. 40～49歳	4. 50～59歳
5. 60～69歳	6. 70～79歳	7. 80歳以上	

問 22. あなたの診療科について、あてはまる番号すべてに○をご記入下さい。

1. 内科(内科系)
2. 外科(外科系)
3. 心療内科
4. 精神科
5. 神経科
6. その他の科

問 23. あなたの勤務形態について、あてはまる番号に○をご記入ください。

1. 開業	2. 診療所勤務	3. 病院勤務	4. 病院勤務(国立、日赤、済生会、労災、市民)
5. 教育機関(大学等)勤務	6. その他		

質問は以上となります。ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。